

平成17年2月14日

府中市教育委員会
教育長 半田 光行 様

府中市健康地域づくり審議会
会 長 寺 岡 暉

府中市長から諮問のあった「府中市民のより良い健康づくりのために、中長期的ビジョンに立って執行されるべき市の総合政策はどうあるべきか」について審議した結果、次のことについて本審議会からの要望を貴委員会に提出する。

- 1 市長部局との横断的連携による施策推進のための体制づくりについて
- 2 学童期からの食生活改善について
- 3 こころの健康づくり施策としてのスクールカウンセリング事業の協働について

本審議会では、健康づくりのために必要な施策のテーマのひとつを「生活習慣の改善」と位置付けた。それは、乳幼児期・学童期から高齢期までの全ての世代における食事、運動、こころ（メンタルヘルス）に着目し、家庭、地域及び職域等の活動領域で市民が自主的な健康づくり活動を総合的に推進するための基盤整備を目的としており、このたび中長期的に実施すべき政策の方向性をまとめ、府中市長に答申したところである。

答申に記した政策の実現には、関係機関の横断的連携による運営が必要であり、審議過程で出された貴委員会に対する要望等をまとめたので、ここに提出するものである。

1 市長部局との横断的連携による施策推進のための体制づくりについて

特に、次世代育成支援施策を推進していくうえで、学童期を対象とした施策を実施するためには、教育委員会部局と市長部局の密接な連携が不可欠であり、各般の施策が円滑に推進できるよう配慮されたい。

2 学童期からの食生活改善について

飽食の時代である現在、乳幼児・学童期からの肥満が増加し、成人の生活習慣病予備軍となっている。栄養バランスのとれた食生活の実践は、生活習慣病予防のために最も重要な事柄であり、子どもの頃からの健全な食生活の確立が望まれるところである。そのため、保護者に食の大切さを認識してもらうとともに、望ましい食生活を身につける食育の充実が図られるよう、教育委員会部局におかれても所要の施策を講じられたい。

3 「こころの健康づくり施策」としてのスクールカウンセリング事業の協働について

複雑な社会状況の中にあって、不登校、引きこもり、児童・高齢者の虐待、自殺等が問題視されており、世代を問わずこころの健康づくりが求められている。この問題の対策には生涯を通じての取り組みが必要であり、本審議会の答申では、市行政に対してこころの健康づくり施策の強化を提言している。親と子の心の通い合った強い絆に基づく、子どものこころの発達を促進するためには、保護者に対する精神的支援を含め、発達期におけるこころの健康づくり施策が切れ目なく総合的に行われることが大切である。この意味において、こころの健康づくり施策としてのスクールカウンセリング事業の実施にあたり、協働が引き続き、有機的に行われることを熱望する。